

(9) 学校実習・ボランティア支援室**① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

学校実習・ボランティア支援室は、教育実習、学校実習及び学生の各種ボランティア活動を円滑に実施するための支援・危機管理等を行うことを目的として、従来の学校ボランティア支援室を改組し、平成31年4月に設置された。

イ 組織の構成及び構成員等

学校実習・ボランティア支援室は、室長、特任教員、兼務教員、学長が指名した附属学校副校長、教育実習委員会委員長、学校実習委員会委員長、その他必要な職員で組織し、計21人で構成されている。

② 運営・活動の状況**ア 委員会等の開催状況**

令和元年度においては、以下のとおり3回開催した。

- ・ 第1回 平成31年4月9日（火）
- ・ 第2回 令和元年9月17日（火）
- ・ 第3回 令和2年3月4日（水）

イ 審議された主な事項

令和元年度の主な審議事項は、「ボランティア体験」、「学校ボランティアA(学校支援体験)」及び「学校ボランティアB(学校支援体験)」に係る令和元年度実施計画並びにそれら授業の履修状況等についてである。

ウ 重点的に取組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

今年度の被災地ボランティアでは、東北への東日本大震災の被災地ボランティアツアーを実施するとともに、度重なった台風被害に対し、義援金や長野市へのボランティアを募った。義援金は合計53,721円、長野市へのボランティアは延べ18人に達した。

また教育ボランティアに対する学生への周知を促す目的から、昨年度より4月に「ボランティア説明会」を実施している。そのため、派遣実績および派遣率が向上した。

③ 優れた点及び今後の課題等

「教育ボランティア」について、特に大学院生への周知を図るために、新体制となった大学院の各コース長へ協力を依頼し、コース毎のガイダンスで資料配付と説明を行う等、周知を徹底した。学生の参加人数も向上した。また今年度は本学教員による研究団体の登録が5団体あったことが特筆される。このため、本学教員への周知をいっそう図るためにポータルを活用することを検討したい。

「学校ボランティアA」では受入小学校の実務担当者に加えて校長にも参加をいただき打合せ会を行った。校長が実務内容や他校の様子を理解したことで、各校とも学校全体としての協力態勢が強まり、受入ボランティア数の増加、多様化を推進した。また事務のあり方にも率直な意見交換が行われ、他校の事務方法を自校の改善に生かしたり、互いに工夫したりすることで、ボランティアの情報交換フォームの改善等、事務の簡潔化につながった。学生の参加率も高まった。

「ボランティア体験」では、年々履修者が減少していることから、追加の事前講習会を2回実施した。また、事業所に対しては、交通費の支援を働きかけるなどの対策を講じた結果、一部の事業所では交通費が支給されるようになった。また、教育ボランティアの受入登録は単年度扱いとしているが、年度をまたいでの継続的な

募集や、例年の繰り返し内容等の場合で、周知が徹底していない面があった。今後はボランティア支援室で確認をしながら年度更新を徹底していく必要がある。

国立妙高青少年自然の家を中心とした社会教育施設へのボランティアについて、本年度より新たに「社会教育ボランティア」として枠組みし、受付整理を行った。これにより、上級生のボランティア活動への取組状況が明確に把握できるようになった。